

～ 砂田賞 ～



杉本 誠一郎

略 歴

昭和49年2月16日生
平成10年3月 高知医科大学医学部卒業
平成10年5月 岡山大学医学部附属病院第二外科医員（研修医）
平成10年9月 香川県立中央病院外科嘱託医
平成12年9月 医療法人伯鳳会赤穂中央病院外科医員
平成14年9月 本山町立国保嶺北中央病院外科副医長
平成15年7月 岡山大学医学部・歯学部附属病院
腫瘍・胸部外科医員
平成16年4月 岡山大学大学院医歯学総合研究科博士課程入学
平成19年3月 同修了
平成19年4月 Washington University in St. Louis留学

研究論文内容要旨

両側生体部分肺移植術は脳死肺ドナー不足に対応する方法として容認されているが、胸腔内に下葉のみを移植するため体格の小さい患者に限られる。このため、体格の大きい患者に適用できる新しい生体肺移植術式である両側自己肺温存部分肺移植術の開発を行った。両側自己肺温存部分肺移植術を12組のイヌに施行した。ドナーの右中・下・縦隔葉を右グラフト、左下葉を左グラフトとし、レシピエントの自己肺である右上葉と左上・中葉を温存しながら、両グラフトを解剖学的位置に移植した。急性期実験（n=6）では温存された自己肺への肺動脈分枝を結紮し移植肺機能を3時間評価した。慢性期実験（n=6）ではレシピエントを免疫抑制下に3週間観察し気管支癒合や長期の移植肺機能を評価した。急性期実験では6例とも良好な移植肺機能を示した。慢性期実験では6例中5例が3週間生存し良好な移植肺機能や気管支癒合を示した。両側自己肺温存部分肺移植術はイヌモデルにおいて手技的に可能で、良好な呼吸機能や気管支癒合を示した。